

市と市
川前崎
御前

市長がイクボス宣言

働きやすい職場実現へ

菊川、御前崎の両市、部下の仕事と私生活のは9日、幹部職員らが「両立を後押しする上司



共同でイクボス宣言をした太田市長(左)と柳沢市長ら＝菊川市中央公民館

「イクボス」になることを誓う「共同イクボス宣言式」を菊川市中央公民館で開いた。

「イクボス」は部下のワークライフバランス(仕事と生活の両立)に配慮し、組織の業績も上げつつ、自らも仕事と私生活を兼

しむことができる上司を指す。式典では太田順一菊川市長が宣言書を読み上げ、太田市

長と柳沢重夫御前崎市長が宣言書に署名をした。

宣言では「子育てや介護などに時間を割いている職員を差別(冷遇)せず、正當に評価すること」などイクボスに向けた10ヶ条を掲げている。両市は宣言を通じて幹部職員の意識改革を図り、働きやすい職場環境の実現につなげていく。

続いて、NPO法人「ファザリング・ジャパン」の安藤哲也代表理事が講演した。(掛川支局・吉田史弥)

2市長、イクボスを宣言

職員の仕事と生活の調和 菊川、御前崎市が推進



イクボスの宣言書を手にする菊川、御前崎両市長と両市の幹部職員＝菊川市中央公民館で

菊川市の太田順一市長と御前崎市の柳沢重夫市長は九日、市職員のワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を推進する共同イクボス宣言をした。菊川市中央公民館での宣言式で、守るべき十カ条を記した宣言書に署名し、自らイクボスになることを誓った。

イクボスは、部下の人生とキャリアを応援しながら職場の業績を向上させ、自身も仕事と私生活を充実させている管理職。式には両市の副市長と教育長、課長級以上の幹部職員がそれぞれ四十人ずつ出席した。両市ともに女性の幹部職員は二人。父親の子育てを支援するNPO法人ファザリ

ング・ジャパン(東京)の安藤哲也代表理事が立会人になり、講演をした。
十カ条には、職員が私生活に時間を割くことを理解し冷遇しないことや、育児休業取得者がいても業務が円滑に回るようにすること、会議時間の短縮や書類の削減、意思決定の迅速化などが盛り込まれている。
太田市長は「今日をスタートに、行政機関がこうした心づもりでいくことを市民に伝えたい」、柳沢市長は「幹部職員が若い職員の秘めた能力を思い切り引き出してほしい。宣言を機に、行政と市民で取り組みたい」と話した。
両市職員の育休取得率は女性職員が100%なのにに対し、男性職員は取得事例がない。具体的な目標値は定めておらず、意識改革から取り組む。(河野貴子)